第4回　関大合格への最短距離　合格のための隠れたポイント～文整序問題～

<文責：大学受験予備校Filio 島村青児>

合格のための戦略

第1回目で説明した「合格のための得点シミュレーション」を覚えてる？

合格のための問題別得点シュミレーション

	配点	目標得点	得点率	難易度
［Ⅰ］	44点	40点	90.9%	やや易
［Ⅱ］	88点	60点	68.1%	やや難
［Ⅲ］	68点	40点	58.8%	やや難
合計	200点	140点	70%	

<大学受験予備校Filio調べ>

第2回～第3回では「長文読解の正しい読み方」を説明してきたけれど、実は関西大学合格のためには、長文以上に［Ⅰ］Bの「文整序問題」が合格の鍵なんだ。上の表にあるように［Ⅰ］で満点近くを取ることが合格の条件なんだよ！

会話と文整序問題は短期間で得点が伸びる！

第1回でも書いたように、各大学の入試で合格点を取るポイントは２つ。

①配点の高い分野を攻める
②学習効果が現れやすい分野を攻める

残り時間が短い場合は当然、②をしっかりトレーニングすることが大切。そして関西大学の英語ではそれが［Ⅰ］、特にBの「文整序問題」が学習効果が現れやすい分野なんだ！

文整序問題の作成者の意図

1文1文の解釈能力ではなく、1つのパラグラフを構成している6つのパーツの「論理関係」の把握と理解力を試すのが「文整序問題」の狙いだよ。そしてこの「論理関係」っていうのは、第3回で説明した「文と文の論理によるルール①②③④」のこと。
この論理的な理解はセンターの3番「不要文を省く問題」や6番の最後の問題「英文全体の段落構成を問う問題」でも出題されているんだよ。

いきなりだけど、次の問題をやってみて。

例題1
次の形式段落（パラグラフ）には、まとまりをよくするために取り除いた方がよい文が1つある。取り除く文として最も適当なものを①～④から1つ選びなさい。

切手収集はお金がかからず、やりたい時にいつでも楽しめる教育的な趣味です。

① それは世界中の色々な国の歴史、地理、著名人、それに慣習について学ぶ楽しくて実用的な方法を提供してくれます。
② この趣味は1840年に英国で世界初の郵便切手が発行されたすぐ後で始まりました。
③ 受け取った封筒に貼ってある切手をとっておくことで、お金を使わずに始めることもできます。
④ さらに、雨が降ろうが降るまいが、いつでも収集に励むことができます。

新しい趣味をお探しなら、切手収集は皆さんにぴったりかもしれません！

できたかな？実はこれはかつてのセンター試験の「不要文を省く問題」の英文を日本語に全文訳したものなんだ。問題の①～④の中で「要らない文」をみんなはどうやって判断したのかな？
「この文は要らない」って判断した根拠は、この段落のテーマにその文が沿っているかどうか、英文と英文のつながり方が正しいかどうかっていう論理的な関係だったはずだよ。それこそが、関西大学の文整序問題を解くための基本だし、入試のすべての評論文の読み方の秘訣なんだ！

正解と解説はこちら ▲

文と文の論理的関係は英文も日本文も同じだ！

この問題は本来英文で書かれていたんだけれど、日本文でも英文でも、テーマとのつながり方や文と文の関係は同じだよね。

第1文「切手収集は（1）お金がかからない、（2）いつでも楽しめる、（3）教育的な趣味だ」が、この段落（パラグラフ）のテーマで、①の日本文は（3）、③の文は（1）、④の文は（2）のその具体的な説明になっている。

【抽象→具体】【全体→部分】の論理的順序だよ。

だからそのテーマにあってない②が正解。

じゃあ、もう1題やってみよう。これもかつてのセンター試験の「不要文を省く問題」の日本語訳だよ。

例題2
もしハイキングやキャンプに行くなら、犬を一緒に連れて行きなさい。自然の景色と音は、人間にとって大きなリラックス効果を持ちうるものだが、これは犬も同様に当てはまる。

① 犬は長い間人間の最良の友人だとみなされてきた。
② 犬は広々とした野原や森の中を嬉しそうに駆け回る。
③ 犬は駆け回りながら興味深いものを見つけて、飼い主を驚かせることさえあるかもしれない。
④ 人間も、犬と一緒に自然の中で時を過ごしながら、多くのことを体験できる。

犬と一緒にいれば、屋外で時間を費やすことから得られる楽しさが倍増することが期待できるのだ。

この日本文の形式段落のテーマは第1文の「もしハイキングやキャンプに行くなら、犬を一緒に連れて行きなさい」だってわかったよね？さっきも言ったように「日本文と英文の論理的なルールは同じ」だから、ある内容が日本語で書かれているか英語で書かれているかだけの違いで、文と文の論理的なルールは同じってことだよ。

正解と解説はこちら ▲

文と文の【結果→原因】（結論→理由）

第1文と下線のない第2文との論理関係に気がついたかな？第1文「犬をハイキングやキャンプに連れて行きなさい」→第2文「（何故なら）自然の景色と音（＝ハイキングやキャンプ）は人間だけでなく犬にもリラックス効果がある（からだ）」
この第1文と第2文の関係が【結果→原因】だよ。

②は「犬は自然の中を嬉しそうに駆け回る」

③は「犬は自然の中で駆け回りながら、興味深いものを見つける」

④は「人も一緒に自然の中で多くを体験できる」

この②～④の文の内容は全て第2文の「リラックス効果」の具体説明になってるよね。テーマである第1文と第2文は【結果→原因】、第2文と②～④の関係は【抽象→具体】の論理的なルールだ。だからそのルールに合ってない①が正解。

どう？少しは論理的な関係がつかめてきたかな？次回は文整序問題で論理的関係を確認しよう！